


ジョウ
襄

旧 襄 衣・田(産参照)・土(古い形はで、人が土
 仕事をしている形)

上衣をぬいで、口口にわいわい言いながら畑仕事
 をすること

仕事の能率が上がる

ジョウ
 上の仮借

ジョウ
醸

酒がぶつぶつ言って、あわが上がる状態

かもす(発酵) 例 醸成・醸酒

酒を造る 例 醸造

ジョウ
讓

わいわいぶつぶつ言いたいことをじゅうぶんと言うと、自
 然と相手の立場もわかり、自分の立場も相手にわかってもら
 える。そこでお互いにゆずる気持ちが自然とわく

ゆずる 例 謙讓

注 酒がじゅうぶん**に**ぶつぶつ言って、それがやんだとき、リ
 っぱな酒ができ上がる。そのように、主張すべきは主張してこ
 そ真の理解のうえに立った和合ができ上がるのだ。讓は“ゆ
 ずる”意味ではあるが、“ぶつぶつ言う”という字でできている
 ことは、なんと意味の深いことではないか。謙讓とは、ただ人
 の言うなりに従うことではないのだ。

ジョウ
 × **穰**

稲を作る仕事の能率が上がる

豊かにみ^のる 例 五穀豊穰

ジョウ
嬢

豊かにみのった女(むすめ)

りっぱに一人前に完成した婦人

注 良い女という意味の“娘”と同音同義であるが、今は、娘
 は“むすめ”、嬢は“お嬢さん”というように使い分けている。

ジョウ
壤

畑仕事をするのに適した土

よい土 例 土壤

大地 例 天壤無窮

注 土壤は単に“つち”という意味のことばではない。“穀物を作
 り育てる土”“万物の母なる大地”という意味のことばであ
 る。

× **攘**

口口に言い合う意の襄と手との会意・形声字。相手の意

見を口でしりぞけるだけでなく、手まで使うこと

手ではらいのける 例 尊皇攘夷(皇室を尊び、夷〔国人〕を

追い払うという意味で、幕末に口にされたことば)